



# AMUSE

## 年報

第3号 2019.3.31



**旭川医科大学外科学講座教育支援機構**

## 目 次

教授挨拶	1頁
新教授就任挨拶	9頁
2018年度 AMUSE運営体制	10頁
2017年度 収支決算報告	11頁
AMUSE事業報告	12頁
2018年度 AMUSE事業一覧	13頁
AMUSE2018年度を振り返って	14頁
2018年度 メディア掲載一覧	18頁
AMUSE 表彰プログラム	20頁
医学生発表	21頁
法人会員紹介	24頁
2018年度 AMUSE新入会員一覧	26頁
AMUSE 初期・後期研修医一覧	31頁
編集後記	32頁

## AMUSEまだまだ前進中 平成30年度を振り返って

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 代表理事  
旭川医科大学病院 病院長  
旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野 教授

### 古川 博之

会員のみなさまには、日頃からAMUSEの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。平成30年度の主なイベントや活動と今後について、ご報告したいと思います。

まずは、平成30年8月1日付けで、角泰雄先生が旭川医科大学の教授に就任され外科学講座消化管外科学分野が新設されました。祝賀会に際しまして多くの方々にお祝いにかけていただき誠にありがとうございました。これでわれわれの外科学講座が4つの講座教授に加えて、2人の病院教授、1人の特任教授からなる「7人の侍」ならぬ「7人の教授体制」が確立したことになります。角教授は大腸の腹腔鏡手術とダヴィンチ手術のエキスパートで、12月には、吉田学長の肝いりで全国を先駆けて購入した8Kスーパーハイビジョンのモニターを用いた腹腔鏡手術を行っておりメディアにも取り上げられました。

9月16日、17日には、ホテルライフオート札幌にて第2回北海道外科関連学会機構合同学術会議(HOPES2018)が開催されました。ちょうど、北海道胆振東部地震が9月6日に襲った直後でもあり開催が危ぶまれましたが、開催が決断され多くの外科医が集まりました。また、AMUSEの支援で旭川医科大学の学生も参加し、学生セッションでは旭川医科大学からも2名が参加し、最優秀賞は逃したもののすばらしい発表に対して賞賛の拍手が送られました。3大学で行うハンズオンのコーナーにも研修医や学生が詰めかけて熱心に吻合・縫合の練習を先輩方に教えてもらう企画で本学の学生が優秀賞を受賞しました。

Surgical Grand Rounds (SGR) も3年目を向かえて、外科医だけでなく院内から多職種が参加する行事となり定着しております。平成30年度は計6回のSGRが行われました。主なものを紹介しますと、5月に行われた第17回SGRでは木村健先生に講演してもらいました。(写真1) 木村先生は、

若くしてオハイオ大学の小児外科の教授に就任し、アメリカの小児外科を牽引してきた経験からアメリカと日本の医学教育の違いについて講演していただき、「ほめて育てる」との教えをいただきました。7月には、第18回SGRが開催され、テレビ番組「サンデーモーニング」に出演されている大崎麻子さんが女性のリーダーシップについて講演いただきました。(写真2) 女性外科医はもちろん、皮膚科山本教授や看護部からもご参加いただき、講演後は本のサイン会も催されました。8月には、第19回が開催され、山崎健二先生にこれまで先生が長年にわたって手がけられた人工心臓へ



(写真1) アイオワ大学 木村健先生 (写真中央)

**第18回 Surgical Grand Rounds**  
AMUSE 主催 特別企画

**女性のリーダーシップが  
職場を変える**



なぜ今、女性の力？  
～世界の潮流と日本の現状～

関西学院大学客員教授、  
公益財団法人プラン・  
インターナショナル・ジャパン理事

**大崎 麻子 先生**

日時

平成30年 **7月30日**

18:00～19:00

会場

**臨床第1講義室**



司会：古川 博之 先生  
旭川医科大学  
消化器病態外科学分野 教授

どなたでも  
ご参加いただけます。

講演後企画  
サイン会・著書販売会

お問い合わせ 消化器外科 医局 内線：2503

(写真2) 公益社団法人プラン・インターナショナル 理事 大崎 麻子先生

の取り組みについて紹介してもらいました。(写真3) 患者のためにできるだけ耐久性のある人工心臓を作りたいという執念には並々ならぬものがあり、幾度となく困難に阻まれながらも、会社の設立、製品の実用化に至っています。12月には、第20回SGRが開催され、東北大学呼吸器外科の岡田教授が肺移植について講演してくれました。肺移植手術の多数の経験から、手術の困難さと現場の苦労話を聞くことができました。2月には、第21回SGRが行われ、本田宏先生が早くから主張されて医師不足の問題とその解決法などについて話してもらいました。(写真4) 医師不足解消のためのタスクシフティングとして、臨床工学士のPhysician Assistant (PA) としての活用を提案されていました。

平成30年度から新しい取り組みとして10月20日に、ブラックジャックセミナーを開催し、近隣の中学校から外科に興味のある32名が参加し、縫合の練習や腹腔鏡手術操作でのゲーム体験、救急車内でシミュレーターを使った蘇生の体験、手術室の見学など外科の1日体験をしてもらいました。



(写真3) 北海道循環器病院医療研究所所長  
山崎 健二先生 (写真中央)



(写真4) NPO法人医療制度研究会副理事  
本田宏先生

皆、真剣に取り組み最後は修了証書が手渡されました。この模様は、旭川のポテトチャンネルや広報誌でも紹介されました。これ以外にも、キッズタウン80にもブースを出して、子供に外科のおもしろさをアピールしており、将来これらの子供たちが外科医として戻って来てくれるのが楽しみです。

これらの活動以外にも、学生たちに外科への興味をもってもらうために全国学会に連れて行く企画も行っています。日本外科学会や日本血管外科学会に学生を連れていき、全国学会の緊張感を味わってもらうと同時に、親睦を深める企画です。また、大学内では平成30年度で計6回のハンズオンセミナーなどを中心とした外科手技を実践する企画が行われました。昨年も7月に各研修病院が自分たちの病院の研修システムをアピールするレジナビフェアを開催し、その後、ハーベスト・ロードでバーベキュー・パーティーを行い、多くの学生さんに参加していただきました。

このようにAMUSEは着実に前進を続けており、学生や研修医へのアピールだけでなく小・中学生にまで及んでおります。入会者(新入医局員)もコンスタントとなってきていますが、地域の外科医療に貢献するというAMUSE設立の理念を忘れないように進んで参ります。会員の皆様におかれましては、いつもAMUSEを応援いただきありがとうございます。今後も皆様の声に答えられるようこれからも精進して参ります。

## AMUSEにおける 外科医育成と働き方改革

旭川医科大学 外科学講座  
血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 教授  
東 信 良

旭川医科大学外科専門研修プログラムの責任者を拝命し、AMUSEで専門医育成担当をさせていただいております。

外科医の育成は「数ある診療科の中で最も時間がかかるもの」と漠然と昔から唱えられており、私も外科医になると決めたは良いけれど、腕に自信などあるはずもなく、不安な若手時代を過ごし、手術の下手さに自己嫌悪の日々を送っていた

頃にかけていただいた「お前の外科医として能力は10年後に評価してやるから、10年間焦らずにやりなさい」という恩師の笹嶋前教授の慰め？のお言葉をよく思い出します。確かに、命に関わる大きな手術を行う外科医には、乗り越えなければならぬいくつもの壁があり、良いときも悪いときも患者さんのそばを離れず、苦しい経験をしながら少しずつ成長するものというのが自分達の時代の外科医像であったように思います。

しかしながら、時代は変わり、外科医への成り手が減っていく中、さらに、このところ毎日のように話題に上る「働き方改革」が差し迫る中、我々の世代が引き継いできた「外科医のあるべき姿」が大きく変わろうとしているように感じております。

働ける時間が減るということは、全ての業務即ち、カンファレンスや抄読会などの時間、手術時間、術後管理、回診時間、カルテ記載時間、実習学生への教育時間、地域医療支援時間、当直業務、緊急患者対応、学会準備時間、学会発表機会、研究従事時間などを減らす必要があります(その分、家族を大切に、余暇を楽しめと急に言われても、我が家には美人のミュウちゃん(メインクーン)は居ますがお話し相手にはならないし…)。かといって、外科手術技術の習得を遅らせることや手術件数を落とすこと、あるいは研究のレベルを落とすことは全くもって皆様の本意ではないわけです。外病院でのアルバイトも就労時間に含まれますから、それを大幅に削減せざるを得ませんが、地域医療を崩壊させることも北海道人として許容できないところです。ましてや、収入が激減することは許容しがたいところです。NPやPAを育てようとしているのは当然であります。まだまだ時間がかかるでしょう(CEさんをPAへと育成できないかを早急に行動に起こす必要があると考えております)。医療秘書を増やすのも当然行うべきですが、看護助手や医局秘書を募集してもほとんど応募しない現状をみると、人材そのものが不足しているので、なかなか簡単ではありません。

そこで、凄い威力を期待できる組織がAMUSEなのではないかと考えるわけです。AMUSEに多くの若手を招き入れることができ、選択と集中、業務分担に成功すれば、限られた時間であっても効率よく、かつ優れた外科医をどんどん育成でき

る勝ち組になることができます。働き方改革で外科医療が崩壊する危機的状況を前にして、いかに皆様の英知を結集し、結束して準備するかが問われています。

これから具体的に詰めてゆく必要がありますが、下記の3つ、ないし4つのサイクルを回るようなこともひとつの解決策になる可能性があります；①大学で外科臨床医としてどっぷりと臨床にのめりこむ期間(ただし当直はしない)、②研究や学会準備などに集中する期間(超過勤務はしないが、当直を担当し翌日は休む)、③市中病院や地域病院に出向して地域医療に貢献する期間(超過勤務や当直した場合は翌日は休み)、④大学に戻って教育を担当する(当直と術後管理を担当し、当直翌日は休む)。人数は必要になりますが、このような概念であれば、時間を守り、収入もある程度確保できる可能性があります。関連病院にとっても、外科医がローテーションでやってくるので、業務を分担することで、病院職員全体の超過勤務を減らすことになるでしょう。自宅にはOff-the-Job training機器を擁し、自己研鑽として技術を修練し、それを上司がインターネットでアドバイスする。すでに、個人練習用のシュミレーターと評価システムは完成し、先日、室蘭で卒後3年目



HOPES2018での学生セッション表彰式にて



HOPES2018にご参加頂いた  
先生方、研修医、学生と

の専攻医が血管縫合動画をYou Tubeに送ってきました (TAMATEBAKO 遠隔指導プロジェクト)。患者のそばでつきっきりで術後管理をすることは外科修練として一定期間必須と考えますが、上記①の時期にそれを行うとともに、ドクタースマホで術後検査データや経過表をモニターできるシステムは6月頃から可能になる予定です。

学会が多すぎるのも働き方改革のさまたげになっています。学会が多すぎて、かつ、それぞれの会の質の低下が目立ったり、学会が多すぎて演題を絞りだすような状況になっています。そうした意味でもHOPE立ち上げは大正解であったと言えると思います。北海道は学会の集約化に成功したと言えますが、全国学会はどうでしょうか。全国学会で発表する場合、発表の時間も往復の時間も、資料準備の時間も全て勤務時間にカウントされる方向で進められているので、今後は学会側も発表者側も発表機会を絞って、選択と集中の原理を働かせ、一回の発表機会を大切に、十分な準備と複数回の予行を行って、発表後は必ず論文にするというように変わっていかねばならないでしょう。

今年から私がHOPE代表理事を拝命しましたので、数ある学会の中で、そして、働き方改革の大波の中で、HOPEをいかに魅力的な場にしてゆくか、試される時代と捉えております。働き方改革を唱え、方針を決めるのは所詮中央の人間です。北海道のことは、我々でしっかり考えてゆく必要があります。昨年は震災直後で大変な時期ではありましたが、多くの学生や若手で盛り上がりました。今年、特別企画として、災害時に外科医はどう動くべきか、手術室はどう対応し、何が課題かを話し合う場を用意しております。北海道の外科が集結する唯一の機会を大切に、皆で知恵を出し合う場になることを目指しております。

働き方改革の荒波を目の前にして、いろいろ書かせていただきましたが、大学内外の皆様のアイデアが不可欠です。AMUSEとHOPEを舞台にして、働く時間を短くしつつ、より優秀な外科医を育て、地域医療にも貢献しつつ、医療の最先端を走り続けましょう！

## リーダーシップ について思う

旭川医科大学 外科学講座  
心臓大血管外科学分野 教授

紙谷 寛之

医療の現場では多職種の人々が協力して業務を行います。それがいいか悪いかは別にして、医師にはリーダーとしての機能が要求されます。これは、たとえ研修医であっても、医師からの指示があり始めて病棟業務が成立することからも明らかです。また、外科医として修練を積む中で、最初は上司に言われるがまま手術をしても、そのうち自分がリーダーとなり手術場をコントロールする必要が生じます。内科医であれば、各々の意思に主治医として若いうちからかなりの権限が与えられますが、外科の場合はチーム医療の形態をとることがほとんどですので、チームへの帰属意識と各々のレベルでのリーダーとしての自覚が非常に重要となります。

リーダーシップには従来型である**支配型リーダーシップ**と、最近の流行である**サーバントリーダーシップ**（支援型リーダーシップともいわれる）があります。その違いを表1に示します。

	サーバントリーダー	支配型リーダー
影響の及ぼし方	部下との信頼関係	組織内の権力
重視する点	双方の利益	競争で勝つこと
コミュニケーション手法	傾聴とアドバイス	命令・指示
目的	組織への奉仕	自らが高い地位に就く
失敗への対応	原因の追究と失敗から学ぶ環境づくり	厳しい叱責や注意

こうしてみると、サーバント型の方が良い方法で、支配型の方はいわゆる昔の白い巨塔、悪の権化といった感じがしますが、必ずしもそうではありません。サーバント型の場合はチームメンバーのストレスは低くなりますが、その分どうしても規律が緩んできますし、医療現場においては、そうした規律の緩みが重大事故につながりかねません。また、指揮系統があいまいになりがちで、チーム内の意思統一が取れず、方針が指示を出す医師によってばらばらとなりがちです。術後の指示

でも非常に問題ではありますが、術式となるとさらに問題で、各々がばらばらの術式を取ってれば、診療科としての成績すら出せません。

一方支配型の方は、支配というと悪く聞こえますが、良いように表現すればガバナンスということになり、トップダウン的に意思統一は図りやすくなります。まともな人がリーダーであるということ的前提にすれば、医療の現場では支配型リーダーの方が適しているともいえます。また、一般的に、危機的状況においては支配型リーダーの方が有効に機能すると言われていています。医療現場、特に外科の現場においては、非常に頻繁に危機的状況が訪れますので、その意味でも支配型リーダーは魅力的なオプションです。問題は、まともな人がリーダーになるとは限らないということです。プロサッカーの世界では、監督はほとんどが支配型ですが、成績不良となると一瞬で解雇されます。しかし、医療の世界では、教授や部長はよほどのことがない限りは解雇されないため、まともでない人がリーダーとなった場合、あるいは就任当初はまともであっても年数を重ねるうちに劣



市内の小3・4年生を対象とした職業体験イベント「あさひかわキッズタウン2018」にて



心臓血管外科学会に関連施設に赴いている  
医師・研修医・学生と旭川ナイトにて

化し、ろくでもない人になった場合は悲劇的な経過をたどります。また、仮にまともなリーダーであっても、支配型の場合、部下が受けるストレスはサーバント型リーダーシップの下よりは強く、昔ならともかくゆとり世代・働き方改革時代の今ではパウハラと受け止められかねないという点も問題です。

私は今までに下記のような組織・リーダーの下で働いてきました。

- 1997年 金沢大学第一外科  
渡邊洋宇教授(呼)・川筋道雄助教授(心)(支)
- 1998年 舞鶴共済病院  
向井恵一先生(心臓外科)(サ)
- 1999年 氷見市民病院  
藤岡重一先生(消化器外科)(サ)
- 2000年 金沢大学第一外科  
渡邊剛教授(支)
- 2001年 舞鶴共済病院  
上山圭一先生(心臓外科)(支)
- 2002年 舞鶴共済病院  
牛島輝明先生(心臓外科)(サ)
- 2003年 ハノーバー医科大学  
Haverich教授(支)
- 2006年 金沢大学第一外科  
渡邊剛教授(支)
- 2006年 ハイデルベルグ大学  
Karck教授(サ)
- 2009年 イエナ大学  
Lichtenberg教授(サ/支)
- 2009年 デュッセルドルフ大学  
Lichtenberg教授(サ/支)
- 2014年 帰国、旭川医科大学

(支)とあるのは私から見た支配型リーダーで、(サ)とあるのはサーバント型リーダーです。こうしてみると、様々な上司につかえてきましたが、タイプはばらばらでした。傾向としては、小さな組織の場合はサーバント型が多く、巨大な医局の場合は支配型が多いように思います。

いろいろな局面で、下っ端としての、あるいは中堅としての、リーダーへの仕え方も大切のように思います。自分が理想とする上司像と現実の上

司は必ずしも一致するとは限りません。上司のタイプに合わせて自分の適応の仕方を変える柔軟性も、チームのため、ひいては患者のためには必要なことであろうと思います。また、そういった姿勢は見る人は見えています。たとえ、今の上司の下では不遇であっても、いつか必ず報われる日が来ると信じて頑張ることが大切でないかと思います。

いずれにせよ、若いAMUSE会員の先生方には、リーダーシップを常に意識し、病棟その他で適切にリーダーシップを発揮するとともに、さまざまな上司からリーダーシップのあり方を学び(たとえ反面教師的であったとしても)、将来立派なリーダーとして北海道の医療に貢献してもらいたいと願います。また、自分自身はリーダーとして後輩の模範になれるように努力を続けたいと思います。共に頑張っていきましょう。

## 青空を翔けぬけろ！

旭川医科大学病院 教授  
小児外科 科長

### 宮本和俊



教授就任から早1年と4ヵ月、この正月に患者さんに宛てた以下の文章を老小児外科医の年頭の挨拶に代えたいと思います。

君が生まれて27年、先月、君ははじめて在宅静脈点滴栄養から離脱した。1万日を超える日々、君は毎日毎日点滴に繋がられてきた。君が生まれたばかりの時、腸は捻れ、小腸のほとんどを失い6cmだけが残った。その時生きるために入れた右外頸静脈カテーテル、この一本の静脈路をまさかその後27年間使い続けることになるうとは、そしてさらにその静脈路が腸の成長とともに不要になる時がこようとは…夢にも思わなかった！体に埋めこまれた点滴セットを定期的に交換するだけでも入院手術が必要なのに、他にも受けた手術はいっぱい。君の人生の五分の一は病院で過ごしたことになる。最後の数か月は口

からの栄養だけで社会生活・仕事ができ、カテーテルは血液でつまらないようにヘパリン生理食塩水を時々ながしているだけだった。とはいえ物心ついたときから体に付いていた点滴をいざはずすと…主治医の心配は当たり前としても、本人が決断することには大きな意志の力が必要だったに違いない。

昨日君から来た年賀状

.....

明けましておめでとうございます。

2018年は本当に特別な年になりました。

27年間「生きてきた」という実感とともに、ここまで沢山のの人に「生かされてきた」とあらためて感謝が出来た年でもありました☆☆

点滴がなくなったことは未だに慣れません(笑)

でも、自ら望んだことですから！

そんなことも言っていられませんね！！

2019年も前を見て突き進んでいきます♪

.....

27年間、地上につながれていた君は今、まるで解き放たれ大空を自由に飛びはじめた鳥のよう。どうだい？大空からの眺めは？あんなに大きく太って見えた宮本先生は米粒のようだろう？色々なことに悩んだ小学校・中学校も、2週間に一回27年間通い続けた旭川医大も、家族で住んでいた地域も…遙か足元に小さく見えるね。

たまにはここに羽を休めにおいでなさい。27年前小児外科医として君と一緒に歩きはじめた宮本も歳をとり、あと一年で定年となるけど、もう少しの間、地上に残っているつもりだから。



## 相撲はなぜ続くか

旭川医科大学 移植工医学治療開発講座 特任教授 (肝胆臓・移植外科分野 兼務)  
 卒後臨床研修センター副センター長 (全外科系統括)

### 松野直徒



私は中学、高校とサッカーに身を費やし全道大会などに出たが、一転して大学時代は、東京でしか味わえない江戸のものに興味を持った。歌舞伎、落語、日本舞踊、狂言、3流映画など授業をさぼっては見に行っていた。そのひとつに相撲がある。学生相撲に身を置いてみた。学生相撲選手権にも出て毎年、国技館で試合をした。運動神経は悪くなかったので結構勝てた。稽古は本格的で、初場所の時は寒げいこで中野新橋の二子山部屋に朝、5時ぐらいから通い、序の口、序二段、三段目などと汗を流した。千秋楽の夜はホテルニューオータニで歌も歌った。若い力士たちと六本木のデイスコにも行った。当時の二子山部屋は興隆をきわめ、土俵の鬼と言われた初代若乃花が親方、2代目横綱若乃花、大関貴ノ花 (そう、引退した横綱貴乃花、3代目若乃花の父上)、大関若島津、稀勢の里を育てたのち横綱の隆ノ里、そのほかにも幕内力士がたくさんいた。相撲の入門力士は外科医以上になり手が少ないのに江戸時代から続いている。地方巡業というリクルートはあるものなぜ、相撲が続くのかと考えてみた。まず、訓練。これは相当きびしい。いまでこそ暴力問題でいろいろ取りざたされるが、30年以上前は私のような学生に序の口、序二段が負けると、それこそはんぱなくカツを入れられていた。こちらが申し訳なくなるぐらいである。そこにはプロとしての誇りと厳しさがまざまざとあった。収入、全員ではないが基本給はある。しかし、勝ち、番付が上がれば、ご存知のように収入増加。勤務医の外科医にはこれはない。礼儀、これも厳しい。ただ先輩やアドバイスをする人を敬い、自分が一人で成長することはないという気持ちをもつ力士は伸びるとされた。また指導者である親方も元横綱ばかりではなく成長を促しサポートする人であると強くな

る。けがや運に恵まれなくて番付が下がっても努力すれば再挑戦、復活戦が用意されていることも良い。権威、これは医者で言えば大きな学会、大きな舞台で発表することだろうか、学会には天皇陛下はお見えにはならないが。最後に、当時、最高峰にあった二子山部屋に通い思ったことがある。鬼であった若乃花親方ではあったが、部屋はファミリーであった。AMUSEもそうあって欲しい。そしてコツコツと歴史を築いてほしい。



高橋先生、大谷先生、合地先生と国際移植学会2018 (マドリード) に参加した際、訪れたR. マドリード サンチアゴベルナベウスタジアムにて。

## 日々の診察で思うこと

旭川医科大学病院 教授  
 呼吸器外科 科長  
 乳腺外科 科長  
 呼吸器センター 副センター長  
 乳腺疾患センター センター長

### 北田正博

こんにちは、昨年は父の死去に伴い、AMUSE様よりご高配頂きましてありがとうございます。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

本稿では、日々の乳癌診療について思うことをお話いたします。

他のがん患者の好発年齢に比べ、乳癌症例は30-60歳代の比較的若いシニア層が多くを占めます。99.5%は女性の症例です。全体の10年OSは90%近くと決して悪くありません。故に初診から考えると、大変長いお付き合いになります。ただ、スムーズにいく症例が多い一方、一般再発症

例やstageⅣの若年初診例、10-15年後の晩期再発例なども経験します。生活面も含め、多彩、多様な状況へ対応や診療は他の領域も同じでしょうが、気を付けなければと思うことがあります。

その一つとして患者様からの投書があります。ちなみに呼吸器外科症例からの投書は経験ありません。投書は何の前触れもなく医局の机に置かれておりますが、封筒には投書に対する反論や意見は不要（受け付けません…）の旨が書かれております。もちろん、お褒めを頂く投書も少なくなく、それは大変励ましになるのですが、年1-2回は辛辣な意見（例えば、医師の評価は5段階中全て1、二度と来たく無い、人には絶対勧めない等々…）を頂戴します。要反省例もありますけれども、書かれる理由が不明で呆然とする事もあります。診療の受け止め方は三者三様ですから、堂々としていけば良いのですが、私は小心者故に、しばらくは嫌～な思いを引きずります。投書をしたと思われる人の外来診療時も心がざわつきます。

医療はある意味サービス業ですから無記名の投書評価は必要であり、システム改善に結び付く事もありますが、マイナスな投書は心が痛みます、であれば、なるべく好印象を持たれるように心がけようと思うことも必然でして、時間の許す限りbed sideに顔を出す事、朝夕はきちんとご挨拶する事、しかも目線を合わせる事、大部屋であれば周りの人にも気を遣う事… ん？ 臨床医師としての普通の事か… 更に、ベッド脇に散らかったスリッパは揃えてあげる、元来いかつい顔立ちなので目を細め笑顔に見える様にする… ここまでくるとちょっと病気？、とにかく、患者の対峙において、私が普通と思う事を今後の若手医師が共

感してくれるかどうか… 技術指導とは異なる、要検討の指導事案です。

本年も会員の皆様並びにご家族の方のご健康を、祈念いたします。本年も御指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



## ごあいさつ

旭川医科大学 外科学講座 消化管外科学分野 教授

### 角 泰 雄



2018年8月1日付で神戸大学より着任いたしました。前任地の神戸大学では、下部消化管外科分野の責任者として診療・研究・教育に従事し、腹腔鏡下手術の標準化ならびにその普及にも力を注いで

きました。

我々の消化管外科学分野は、消化管疾患（主に食道癌・胃癌・大腸癌などの消化管悪性疾患）を担当することとなります。現在、消化管疾患に対する外科治療は、腹腔鏡下手術が中心となってきています。腹腔鏡下手術は低侵襲であるだけでなく、最大のメリットである拡大視効果によって非常に精緻な手術を可能としています。この手術は日進月歩する最新の機器を使用しての手術となります。これまでの外科医教育にはなかった高度な医療機器に対する知識の習得も求められます。安全に腹腔鏡下手術を広めるために、指導者としての資格である日本内視鏡外科学会技術認定医の育成が急務となっており、AMUSEにおきましても積極的にトレーニングを中心としたセミナーや研究会を開催していきたいと考えています。

大学病院では、研修医・若手医師の皆さんには手術加療を中心とした大学病院でしかできない先進的な治療にも積極的に参加してもらいます。日々の臨床経験の中で『患者をよく診る』ということをもっと重要な柱としてトレーニングを積み、日々の雑務に流されがちな大学病院での診療業務の中で、疑問点を曖昧にせずひとつひとつ解決していくことを強く望みます。自らの研究テーマを持ち、実験モデルの決定からデータ解析までを担うことにより、医学研究者としての基本姿勢を学んでもらいたいと考えています。

さらに、現在は研究能力のみならず専門的で高度な保険医療を受けることができる体制を要望する国民の声はますます強くなっています。専門医

制度に対する認識を深めて、高度の専門性を必要とされる業務に必要な技能・態度を修得させ専門医資格取得の準備期間としても指導していきたいと考えています。また、技術面の習得だけでなく、問題点を明らかにし自ら答えを探ることができる『考える外科医』の育成にも力を注いでいきたいと考えています。特に消化管癌に対する分野では、腹腔鏡下手術を中心とした『低侵襲手術』が、がん治療に対する手術治療の根幹をなすようになってきています。旭川医科大学においても、腹腔鏡下手術に関する新規機器や手術手技を開発・実践する場として、若手医師・大学院生にも積極的に参加してもらい、次世代の若手リーダーとして活躍できるように指導していきたいと考えています。

旭川医大は道東・道北における地域医療の中核を担う基幹病院でもあります。医師減少・偏在という問題はかなり深刻な問題として地域医療を圧迫してきます。このAMUSEが中心となり、同地域の地域医療の充実を図るべく人材の育成にも力を注いでいきたいと思えます。

当教室は、若い医局員が中心となっており大変活気に満ちた医局です。ここ北の大地、北海道から世界に通用する人材を育成し、さらに地域医療にも貢献できるように頑張っていきたいと考えています。

## 2018年度 AMUSE運営体制

事務局 旭川医科大学 〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号  
 電話 0166-66-2424 FAX 0166-66-2425  
 メールアドレス asahikawa.amuse1@gmail.com

代表理事 古川博之  
 理事 東信良  
 理事 紙谷寛之  
 理事 角泰雄 2018年12月15日 就任  
 理事 北田正博  
 理事 宮本和俊 2018年5月12日 就任  
 理事 松野直徒 2018年5月12日 就任  
 理事 矢吹英彦 (遠軽厚生病院 名誉院長)  
 理事 内田恒 (札幌厚生病院 心臓血管外科 主任部長)  
 監事 新居利英 (深川市立病院 副院長)  
 監事 平澤雅敏  
 幹事 長谷川公治・今井浩二・内田大貴・庄中達也・菊地信介・石橋佳  
 宮城久之  
 秘書 米谷さとえ・島村麻代  
 ※赤字は2018年度就任

### AMUSE法人会員

#### 法人会員施設 38施設 (2017年度 36施設) ※入会順に記載

JA北海道厚生連 旭川厚生病院/JA北海道厚生連 遠軽厚生病院/JA北海道厚生連 札幌厚生病院/JA北海道厚生連 美深厚生病院/医療法人 中島病院/医療法人 唐沢病院/医療法人ひまわり会 札幌病院/医療法人回生会 大西病院/医療法人健康会 くにもと病院/医療法人社団 ふらの西病院/医療法人社団幾見会 木原循環器科内科医院/医療法人社団元生会 森山病院/医療法人社団康幸会 かわぐち心臓呼吸器病院/医療法人社団慈成会 東旭川病院/医療法人社団進和会 旭川リハビリテーション病院/医療法人仁友会 北彩都病院/医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院/医療法人徳洲会 帯広徳洲会病院/公益財団法人北海道対がん協会 旭川がん検診センター/公立芽室病院/国民健康保険町立和寒病院/国立病院機構 旭川医療センター/国立病院機構 帯広病院/社会医療法人 製鉄記念室蘭病院/社会医療法人孝仁会/社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院/小林病院/上富良野町立病院/深川市立病院/天塩町立国民健康保険病院/八雲総合病院/比布町立びっぶクリニック/美瑛町立病院/名寄市立総合病院/留萌市立病院/医療法人双葉会 旭川脳神経外科循環器内科病院/医療法人札幌ハートセンター 札幌心臓血管クリニック/社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院

#### 賛助会員施設 4施設 (2017年度 3施設) ※入会順に記載

医療法人社団真佑会 旭川消化器肛門クリニック/医療法人 治恵会 北見中央病院/医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院/医療法人社団翔嶺館 音更宏明館病院

合 計 42施設 (2017年度 39施設)

※赤字は2018年度加入

### AMUSE個人会員

名誉会員 3名  
 正会員 131名 (2017年度 正会員数 117名)  
 賛助会員 3名  
 合 計 137名

(2019年2月現在)

## 2017年度 収支決算報告

### 収入の部

(単位：円)

科 目	予算額①	決算額②	増減②－①	摘 要			
				予 定	実 績		
1. 会費	28,450,000	28,490,000	40,000	法人正会員	36施設	21,600,000	21,600,000
				法人賛助会員	3施設	200,000	300,000
				正会員(会費10,000/月)	51名	6,120,000	6,070,000
会費2017年度未収分		△100,000		々(会費10,000/年)	51名	510,000	520,000
				賛助会員	2名	20,000	0
2. 負担金	2,200,000	2,206,000	6,000	会費(総会、BBQ大会、忘年会)			
3. 寄付金	1,000		△1,000				
4. 雑収入	588,413	836,840	248,427	ご祝儀、預金利息			
5. 前年度繰越金	10,760,587	10,760,587	0				
合 計	42,000,000	42,193,427	193,427				

### 支出の部

科 目	予算額①	決算額②	増減①－②	摘 要
1. 事業費	24,700,000	18,412,847	6,287,153	
若手外科医リクルート事業	6,000,000	7,223,868	△1,223,868	学生勧誘、合同医局説明会、アドバンス実習説明会、ハンズオン、ウェットロボ親睦会、BBQ大会、学生旅費
学会・研修関連費	1,000,000	117,000	883,000	研究会等の諸会費(一外のみ)・指導医講習会参加費助成等
広報事業費	2,000,000	1,417,000	583,000	ホームページ維持管理費・AMUSE会報誌発刊
学術交流活性化	1,000,000	1,277,995	△277,995	SGR招待演者謝金旅費等
学会発表支援	9,000,000	4,775,031	4,224,969	学会参加旅費助成、英語論文校正・論文投稿助成費用等
キャリア形成、貸付け事業	2,000,000	1,000,000	1,000,000	初期臨床研修医への貸付け(スタート支援)、留学費用支援等
AMUSE教育セミナー開催	500,000		500,000	セミナー開催費用
法人主導型リクルートイベント開催	1,000,000	172,740	827,260	リクルートイベント開催費用
会員福利厚生事業	200,000	145,920	54,080	会員慶弔(結婚・出産・弔事他)
地域社会貢献事業	500,000		500,000	市民公開講座の開催等の開催
社員親睦関連費用	1,500,000	2,283,293	△783,293	医局対抗野球大会参加費、忘年会
2. 補助費	8,100,000	8,766,521	△666,521	
主催学会開催準備	3,000,000	2,600,000	400,000	主催学会資金助成(移植学会寄付2,000,000円 HOPES助成600,000円)
医局運営費	2,100,000	3,917,901	△1,817,901	医局用お茶、菓子、洗剤等々その他消耗品、雑費、備品(PC、冷蔵庫)1,632,749円 接待交際費2,285,152円
非常勤講師・医師謝金等	3,000,000	2,248,620	751,380	大学非常勤講師・病院非常勤医師への謝金、旅費交通費等
キャリア形成支援	0		0	
3. 会議費	2,000,000	938,528	1,061,472	
AMUSE総会・新人歓迎会	1,000,000	934,948	65,052	
AMUSE会議費	1,000,000	3,580	996,420	
4. 事務費	5,300,000	4,146,721	1,153,279	
(1) 事務局費	3,300,000	2,852,397	447,603	
業務委託費	820,000	836,568	△16,568	行政書士、税理士、AMUSE会費回収代行手数料
事務員給与他	1,350,000	1,133,397	216,603	事務員給料、交通費、雇用保険料
賃貸料	280,000	304,744	△24,744	事務所賃貸料、プリンターリース料
印刷・消耗品費	300,000	141,003	158,997	事務局印刷代、消耗品
通信運搬費	250,000	247,829	2,171	電話料、郵便料他
OA機材購入整備費	100,000	18,208	81,792	ソフトウェア購入等
光熱水費	0	21,814	△21,814	事務所、電気水道代 大学へ支払い
備品購入費	100,000	41,040	58,960	事務所用備品購入
雑費	100,000	107,794	△7,794	振込手数料他
(2) 交際費	2,000,000	1,294,324	705,676	開院祝、就任等の祝儀・祝花、弔事等供花、各会協賛金等、教授お歳暮・御中元代
5. 交際交通費	1,200,000	1,477,130	△277,130	タクシーチケット請求代(学生勧誘接待、外部講師、接待の際のタクシー)
6. 租税公課	100,000	90,800	9,200	道市民法人税均等割、収入印紙等
7. 予備費	600,000		600,000	
合 計	42,000,000	33,832,547	8,167,453	
		8,360,880	来期繰越額	

## AMUSE事業報告

AMUSE (Asahikawa Medical University Surgical Educational Support Organization) は北海道、特に道東・道北を中心とした地域の外科医療の安定と発展のために設立された組織です。

具体的な活動として

- ・学生・研修医のリクルーティング活動
- ・若手外科医の活躍の場（論文・学会発表など）への援助
- ・外部講師を招いての高度・先進医療の習得
- ・関連病院との交流を図るイベントの開催
- ・子供たちや地域への外科の啓蒙活動

を行っています。

### ①SGR (Surgical Ground Rounds)

国内はもとより海外からも著明な講師を招聘し、地方では学ぶ機会の少ない、高度外科医療、先端外科医療を紹介していただきます。今年度は6回行われました。

### ②Wet lab／ハンズオンセミナー

医学生へ外科の基本手技・腹腔鏡や人工血管置換などの手技を経験してもらい、外科へ興味もてるよう活動しています。今年度は6回行われました。

### ③子どもたちへの啓蒙活動・地域支援

ブラックジャックセミナーやキッズタウンなどの、子供たちへの活動を行って子供たちへの外科の啓蒙活動を行っています。今年度はジョンジョーンズと共同でブラックジャックセミナーを初めて開催しました。この様子は旭川ケーブルテレビの「ポテトテレビ」・北海道新聞や旭川市の広報誌「あさひばし」でも取り上げていただきました。また2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震では東教授を中心としたチームが被災地へ赴き検診活動を行っています。

この他にも、もはや恒例となってきているレジナビ・バーベキューなどのリクルーティング活動や学園祭の医学展展示への協力、市民公開講座の後援など、AMUSEの活動は病院内にとどまら

ず、地域社会に向けたものに広がってきております。このような活動はAMUSEのホームページ (<https://www.amuse.or.jp/>) 及びFacebookで適宜更新しておりますので、是非とも御覧ください。



## 2018年度 AMUSE事業一覧

AMUSE事業計画に則り、下記事業を遂行できましたのでここでご報告させていただきます。

日付	事業内容	開催場所	備考
4月18日	東大病院 田村純人先生講演 「クリニカルクラクシップについて」	旭川医大 看護講義棟 大講堂	血管外科
4月19日	ハンズオンセミナー（腸管吻合）	旭川医大 小講堂	消化器外科
5月12日	2018年度AMUSE総会・新人歓迎会	アートホテル旭川	
5月17日	第17回SGR 木村 健先生 講演「医学教育改革 米国からの提案」	旭川医大臨床第二講義室	小児外科
5月24日	ハンズオンセミナー（腹腔鏡基礎手技）	旭川医大 小講堂	消化器外科
6月13日	ドライラボ（カテーテル治療体験）	旭川医大病院血管造影室	血管外科
6月16日	市民公開講座乳がん最新治療セミナー	旭川駅前イオン	乳腺外科
6月22日	ウェットラボ （人工血管置換術を想定した血管吻合）	旭川医大 小講堂	心臓外科
6月25日	合同医局説明会・懇親会	旭川医大 小講堂/ 懇親会 ごたく	
7月1日	古川博之先生 旭川医科大学病院 病院長就任		
7月1日	レジナビフェア&BBQ大会	旭川医大第三臨床講義室/ ハーベストロードハウス	
7月13.14日	第10回日本下肢救済・足病学会学術集会 開催支援	ロイトン札幌	AMUSE理事 旭川医科大学 外科学講座 血管・呼吸・ 腫瘍病態外科学分野教授 東 信良 会長
7月28日	第113回日本臨床外科学会北海道支部総会 開催支援	OMO7 旭川	AMUSE理事 遠軽厚生病院 院長 矢吹英彦 会長
7月30日	第18回SGR 大崎麻子先生 講演「女性のリーダーシップが職場を変える」	旭川医大臨床第一講義室	肝胆膵外科
8月1日	消化器病態外科学分野から 肝胆膵・移植外 科学分野/消化管外科学分野 開設 旭川医科大学外科学講座 消化管外科学分野 角 泰雄 初代教授就任		
8月23日	第19回SGR 山崎健二先生 講演「国産植込型補助人工心臓の研究開発・ 実用化と将来展望」	旭川医大臨床第三講義室	心臓外科
10月17日	TAKE ABI 2018 開催支援	札幌厚生病院 健診センター	血管外科
10月20日	ブラックジャックセミナー	旭川医大第三実習室	
11月23日	キッズタウン2018 開催支援	旭川地場産センター	心臓外科
12月10日	第20回SGR 岡田克典先生 講演「肺移植の現状と東北大学の経験」	旭川医大臨床第三講義室	呼吸器外科
12月15日	AMUSE大忘年会・臨時総会	アートホテル旭川	
1月18日	ウェットラボ （人工血管置換術を想定した血管吻合）	旭川医大小講堂	心臓外科
1月28日	アドバンス実習説明会	旭川医大小講堂/ 懇親会 蔵門	
2月7日	ハンズオンセミナー（皮膚縫合）	旭川医大小講堂	消化器外科
2月21日	第21回SGR 本田 宏先生 講演「医師不足、その実態と解決策」	旭川医大臨床第三講義室	肝胆膵外科

# AMUSE2018年度を振り返って



ハンズオンセミナー



合同医局説明会



BBQ



レジナビ



ブラックジャックセミナー

キッズタウン



忘年会





アドバンス説明会



角教授就任祝賀会

## 2018年度 メディア掲載一覧

AMUSEは外科医育成が主たる目的ですが、その活動の幅を広げ地域の支援や子どもたちへの啓蒙を行っています。特に本年度は2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野東教授を中心としたチームが深部静脈血栓症検診を行い多くのメディアで取り上げられました。また、消化管外科角教授が行った8Kモニターでの腹腔鏡手術はNHKの国際ニュースでも取り上げられるほどの反響を呼びました。AMUSEの活動は世界最先端から地域社会にまで幅広く広がってきています。

昨年度、下記のメディアでAMUSEの活動が取り上げられました。

### 新聞・雑誌

日付	掲載誌	内容(タイトル等)
3月14日	北海道新聞	局所麻酔で心臓弁手術
3月23日	北海道医療新聞	キャンパス 第15回アジア移植学会 ベストポスター賞受賞
6月1日	北海道医療新聞	国内初の人工赤血球を用いて肝臓保存に成功
7月17日	日経メディカル	覚醒下で心臓弁手術を敢行した理由
8月1日	LISAコレクション心臓麻酔デビュー	心臓外科医から麻酔科医へお願いしたい10のこと
8月24日	北海道医療新聞	消化器外科教授に 角 氏
9月1日	きみは、いのちをつなぐさ (本)	移植について (はる書房)
9月9日	北海道新聞	エコノミークラス症候群 予防法は
9月20日	メディゲート (インターネット)	医師ペディア 海外研究・臨床留学をサポートする病院 (紙谷先生)
9月20日	苫小牧民報	車中泊続ける被災者
9月20日	日本経済新聞	エコノミー症候群 8人か 北海道・厚真など3町で
9月26日	北海道新聞	臓器医療 理解深めて
9月28日	北海道医療新聞	厚労大臣感謝状 2018年度臓器移植対策推進功労者 (古川先生)
10月5日	北海道新聞	移植医療の先進地へ
10月9日	グラフ旭川	国内初!命をつなぐ灌流保存装置を開発
10月21日	北海道新聞	ブラックジャックセミナー
12月1日	DOCTOR'S MAGAZINE	今年の甲子園から考える今後の医療界の在り方 (紙谷先生)
1月15日	こうほう旭川市民「あさひばし」	ブラックジャックセミナー
1月18日	北海道医療新聞	外科医確保へ成果着実に AMUSEの活動について
2月1日	北海道医療新聞	「顔」(角先生)

### テレビ等出演

日付	放送局	番組タイトル	概要
9月11日	NHK	ほっとニュース北海道	北海道胆振東部地震の際、血管外科で被災地に赴きDVT検診を行っている活動について
9月13日	時事通信社	エコノミークラス症候群の防止に向け、超音波検診を行う医師ら	北海道胆振東部地震の際、血管外科で被災地に赴きDVT検診を行っている活動がNEWSになった。
10月25日	旭川ケーブルテレビ ポテト	ポテトデイリーニュース	ブラックジャックセミナーの様子について
11月4日	NHK	ほっとニュース北海道	旭川医科大学の東信良医師らの医療チームが、11月4日に厚真町の避難所などを訪れて高齢者を中心に検診を行った。
12月17日	NHK	ほっとニュース北海道	8Kモニターでの腹腔鏡手術について
12月28日	NHK	ほっとニュース北海道	“臓器を長時間保存”装置開発について
1月20日	BSあさひ	命を救う!凄腕ドクター	重い病気、つらい症状が出た時、頼りになるのが日々患者のために闘う医師たち。そんな医師の中には卓越した技術を持つ“名医”がいる。患者のために全力で闘う“スゴ腕のスーパードクター”たちに密着する内容。

## AMUSE 表彰プログラム

2018年よりAMUSE学術表彰プログラムが開始されました。1年間の学術活動（学会発表・論文）を評価する試みです。2018年12月15日に行われたAMUSE忘年会の中で表彰式が行われました。血管外科所属の菊地信介助教が第1回最優秀賞を受賞されました。

### 第1回 AMUSE学術外科医表彰プログラム 実績一覧

	入会者名	ふりがな	合計点数	所 属	大学卒業年
1位	菊地 信介	きくち しんすけ	1031	旭川医科大学 血管外科	2008
2位	三宅 啓介	みやけ けいすけ	503	大阪大学	2009
3位	田中 千陽	たなか ちはる	265	旭川医科大学 心臓外科	2008
4位	石井 大介	いしい だいすけ	206	旭川医科大学 小児外科	2012
5位	伊勢 隼人	いせ はやと	201	旭川医科大学 心臓外科	2010
6位	大谷 将秀	おおたに まさひで	192	旭川医科大学 消化管外科	2011
7位	中西 仙太郎	なかにし せんたろう	139	旭川医科大学 心臓外科	2008
8位	安田 俊輔	やすだ しゅんすけ	137	旭川医科大学呼吸器センター	2015
9位	合地 美香子	ごうち みかこ	119	旭川医科大学 消化管外科	2014
10位	奥田 紘子	おくだ ひろこ	113	札幌厚生病院	2005

### 第一回AMUSE学術外科医表彰プログラム 最優秀賞を頂いて

#### 血管外科 助教 菊地 信介

この度、AMUSE学術外科医表彰プログラム最終優秀賞を頂きました。AMUSEを支えて下さっている会員の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。また、学術の指導をして下さいました東教授、長年貴重なデータを蓄積して下さいました先輩の皆様をサポートがあのことだと思っております。教室で受け継がれる『Scientistであれ』という言葉念頭に、『常に自分が不十分であること』を自覚しながら、今後も学術に励みたいと思っております。

AMUSEが立ち上がり、若手の金銭的サポートは過去に比べて劇的に改善しました。しかしながら、これが当然と思っははいけませんし、寧ろ異常に恵まれた環境であることを意識すべきです。何気なくサポートを申請しているかもしれませんが、会員の皆様の協力があるこそという背景を

若手一同忘れてはなりません。金銭サポートを得ている以上勘違いしていけないのは、研究していること自体がえらいのではなく、成果を出すことがえらいという事実です。（成果が出ない研究は、昼寝しているのと一緒です）今後は、自分自身も勿論頑張りますが、後輩の実力を伸ばせるように積極的にサポートし、後輩がOriginal articleまで辿り着ける様にResearch mindに溢れた日常診療にしていきたいと思っております。



## 医 学 生 発 表

AMUSEでは研修医のみならず医学生への指導を行っています。特に外科に興味のある学生には学会発表を経験してもらっております。最近では地方会に「学生セッション」が設けられており、白熱した議論が行われております。学会発表に際しては指導医も並々ならぬ情熱を注いでおります。

今年度AMUSEの援助で医学生が学会発表したのは3件ありました。発表した学生及び指導医より感想をいただきました。この中から明日のAMUSE会員がでてくることを願っています。

### Attenuated FAPに対する 治療について

2018年12月1日

## 学会発表を振り返って (12月臨床外科学会地方会)

医学科 5年 神野 浩史

僕自身にとって初めての学会参加で、右も左もわからぬ中でしたが、指導医の谷先生のご指導のおかげで無事発表を終えることができました。学生のうちからこのような貴重な経験をさせていただき、大変感謝しております。

## 学生指導にあたり

消化管外科 谷 誓良

発表する学生・発表をきく学生にとってどういう内容にすると、発表がしやすく、理解しやすく勉強になるのかは手探りの状態で一緒に作りました。今後も学会では予定されているため、皆でいいものを作り上げていきたいと思えます。

### 不安定狭心症と両側重症下肢虚血 に対する加療を交互に繰り返した 症例の治療経験

2018年9月15日

## HOPES学生発表を終えて

医学科 5年 横山 倫之

2018年度のHOPESでの学会にて学生発表をさせていただきました。私は血管外科分野にて不安定狭心症と両側重症下肢虚血に対する加療を交互に繰り返した症例について発表させていただきましたが、実習期間に実際に担当をさせていただいた患者様でもあったため今回の学生セッションに対しては強い思い入れがありました。指導医の菊地先生のもとでバイパス術に関する多くの論文を読んだり、パワーポイント作成にあたりご教授をいただいたりと大変お世話になりました。先生がしっかりと原稿を添削してくださったことと、学会前に医局の先生方のご指導があったことで、自信を持って発表に望むことが出来ました。発表後の質疑応答では患者様を担当させていただいた当時のことをよく思い出しながら、適切な回答とはいきませんでした。しっかりと答えることができました。とある質問では、全ての画像所見を事前に確認することが出来ていなかったために自力で回答することが困難でしたが、菊地先生が助言をくださいました。緊張しながらも、先生のご指導と助言があったため、無事に学生発表を終えることができ、学生という立場でありながら大きな経験を積むことが出来たと実感しています。今回の学会を通して事前にパワーポイントや原稿

を確認してくださった東教授や医局の先生方、そしてご指導いただいた菊地先生に大変感謝しております。学生発表での経験が、患者様とどのように接すればいいのか、どういうところに注目しているのか、どの治療を優先すべきなのかなど、私が医師になった時に大きな力になるという確信があると共に、これからもっと勉学へ励まなければならないという気持ちと今回の自分を越える発表を目指していきたいという目標を抱くことが出来ました。5年生のうちからこのような大きな学会に参加させていただいたことで、外科を目指したいという意欲がさらに強くなり、6年生でのアドバンス実習でより頑張ろうという気持ちでいっぱいになりました。

改めて、今回はこのような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

6年生でも多くの学会に参加したいと思っています。学会で学んだことを医師となった時に少しでも活かされるように、そしてまずは医師国家試験に合格できるように、勉学に励んでいきたいと思っています。

## 学生セッションの 指導にあたって

外科学講座血管外科 菊地 信介

第2回HOPES学生セッションで、医学科5年横山倫之君の指導をさせていただきました。演題は「不安定狭心症と両側重症下肢虚血に対する加療を交互に繰り返した症例の治療経験」ということで、ポリクリで日常的に診る症例を發表演題に決定しました。彼が実際にポリクリで担当した患者さんである点、教室では最も頻繁に扱う疾患でかつ、長い治療歴をどのように纏めて発表するかという点に焦点を当て取り組みました。

はじめに行ったことは、教室からpublishされている総論をしっかりと読み、ポリクリで学んだ診療実態と論文から得た知識をリンクさせることでした。ここでは、重症下肢虚血の背景疾患とその予後、創傷治癒に必要な血行再建と、多岐に渡る合併症に対して必要とされる術式の工夫等を理解するよう指導しました。その後はスライドを共に作成し、制限時間内でのプレゼンテーションを練習しました。

発表は非常にスムーズで、言葉の抑揚や間の取り方など、彼は自分なりに工夫していた様に思います(センスを感じました!)。ほとんどの学生が自分の担当していない患者さんの発表で、珍しい症例報告の方がより発表し易く、かつ想定質問に対する回答も作り易い点を考慮すると、彼にとっては漠然としたイメージの中での準備ではあったと思いますが、ある意味有意義だったと思います。実際の発表で、「石灰化の強い動脈に対しては、どのような検査で開存評価をするか」という質問に対して、彼が自信を持って答えられなかったことを思い出すと、その答えは日常診療(ポリクリ)の中にあり、基本的な事を理解させて無かった私の指導の不十分さを後悔しています。

本人は緊張したと思いますが、その緊張感こそが今後の自分の精神力の土台となり、押し潰されるプレッシャーの瞬間こそが自分を成長させる唯一の時間であることを実体験してくれたのではないのでしょうか。とにかく発表後に「やって良かった」と言ってくれ、私は満足しています。

## エホバの証人に対する当科における肝胆膵手術の経験

2018年9月15日

## 初めての学会に参加して

医学科 5年 桑原沙弥佳

私にとって人生で初めての「学会」でした。普段の症例経験から得た気づきやアイデアを共有して明日から未来への診療に生かし、皆で協力しながら医療を発展させるための「かけがえのない場」であると身をもって感じる事ができました。発表を成し遂げられたのは高橋先生をはじめ多くの先生方のおかげです。準備段階、先生方との会話や議論の中で、実臨床で常に持たれているマインドを垣間見て、私もこのような外科医になりたいと何度も何度も思いました。

将来は、患者さんにとってのベストを実現するために考察し続け、工夫して得たことを共有して、さらなる議論や意見・アドバイスをもとに深められる外科医を目指します。

この度は、大変貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。

## HOPES2018の感想

肝胆膵外科 高橋 裕之

この度、2018年度北海道外科学会学生セッションで本学5年生の桑原沙弥佳さんに「エホバの証人に対する当科における肝胆膵手術の経験」という題で発表をして頂きました。

初めての学会発表にも関わらず1例発表ではなく複数例のまとめであり、かなりの苦勞をかけたと思いましたが、自分なりに「エホバの証人」のことで、各症例のことをまとめあげ、最終的に症例を振り返った上での自分の意見もしっかりと考えて発表する事ができました。

桑原さんが一生懸命勉強している姿を見て、学生のうちからこのような経験をする事は非常に有意義であると思いましたが、来年度もまた有望な学生を見つけて学生セッションに応募・発表できるように務めていきたい所存です。

最後に、桑原さんは外科医を志望していると聞いています。是非将来当科の仲間に入って頂けるように、この貴重な出会いを大切にしたいと思います。

古川教授を始め、肝胆膵・移植外科の先輩方には発表までにたくさんのご助力を頂きました。誠にありがとうございました。



HOPES2018にて



臨床外科学会地方会にて

# 法人会員紹介

## 製鉄記念室蘭病院

製鉄記念室蘭病院

副院長 赤坂伸之

室蘭地区は旭川から約250km離れ、ややなじみの薄い地域ではありますが、旭川とは道内では限られたJRの電化区間および片道2車線高速道路で結ばれており、時間的距離は3時間ほどです。室蘭市は小さな半島に囲まれた自然の良港をもち、北海道の代表的な工業地区として発展し、近年では工場夜景が有名であるとともに、地球岬、白鳥大橋や有珠山などの観光名所、洞爺湖と登別の二大温泉街に近く、最近では外国人旅行客も多く見かけます。

当院は新日本製鉄の前身企業の診療所として昭和16年に開設され、現在は社会医療法人の中核として活動している病院です。室蘭市の人口集中地区ある東室蘭駅の近傍にあり、病床数は302床とやや少なめですが、室蘭、登別、伊達の3市と周辺の3町を含めた人口約20万人の西胆振地区（2次医療圏）のなかで、高度専門医療、救急医療、癌医療、周産期小児医療を中心に地域医療貢献することを目的とし、手術数や心カテーテル、内視鏡件数、救急車受け入れ数、癌患者数などで地域第一位の実績を持つ病院です。

また、西胆振地区では医師会主体で各病院、医

院、薬局、介護施設などで共通したクラウドを持ち（総務省のクラウド型EHR高度化事業）、お互いの画像や検査結果、処方内容などを閲覧可能にする、道内初のSWAN NET（西胆振地域医療介護情報ネットワークシステム）を構築し、容易に他院の情報を共有することができ、地域との連携を深めています。

外科は一般、消化器、呼吸器外科を北大第2外科および呼吸器外科が担い、心臓血管外科がAMUSEの一員として参加しています。旭川医大の旧第一外科学講座との関連は長く、1995年に前大谷副院長が赴任して以来、旧第一外科の心臓血管部門のメンバーの多くが当病院に研修、勤務しております。現在は赤坂と血管外科精鋭の多田医師のもと、AMUSEの後期研修メンバーとして菊池（悠）國岡、大平医師が順に在籍し、成人心臓大血管外科部門、血管外科部門の双方で専門医修得にむけての実績を着々と積んでおり、2019年4



Swan net（西胆振医療介護情報ネットワーク）



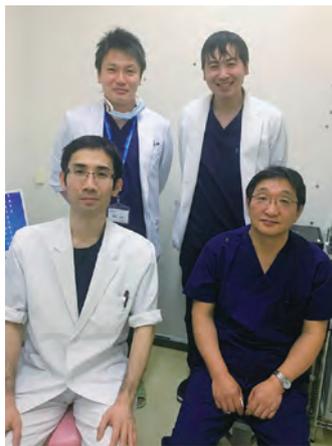
製鉄記念室蘭病院

### 心臓血管外科症例数

	2016	2017	2018
体外循環・OPCAB	72	90	86
TEVAR	23	23	37
EVAR	58	64	40
AAA OPEN・ASO	31	18	42
内Shunt	56	46	95
Varix	25	30	50
PTA	80	152	78
急性大動脈解離入院数	42	50	37

月にも新しいメンバーを迎える予定です。

また、医師臨床研修指定病院としての実績も多く、2019年には、2年目7人、1年目9人の研修医を迎え、AMUSEからも1名の研修医を迎える予定で、大学との交差点を含めると2名の旭川医大卒業生が研修する予定です。



多田 國岡 大平 赤坂

## 深川市立病院

### 深川市立病院

#### 副院長 新居利英

##### 1. 深川市紹介

石狩川と国道12号線沿線に広がる、人口約2,200人の田園風景満載の小都市です。旭川市街地まで電車で約20分、札幌へは約1時間の位置にあります。主要産業は農業でお米、リンゴ、さくらんぼが有名です。周辺4町（沼田町、妹背牛町、秩父別町、北竜町）と北空知2次医療圏（約3万人）を形成しています。

##### 2. 病院紹介

診療科は13科、昨年度より神経内科（物忘れ外来）を開始、また総合診療専門医研修プログラムを開始しています。（婦人科、小児科、整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科は外来のみ）

病床：204床：一般199（地域包括ケア：34）

感染4

入院患者：163.5人／日 外来患者：474.4人／日  
常勤医師数：17名＋初期研修医1名＝18名

※本年度より1年間の予定ですが、外科研修医1名（6か月交代）放射線科研修医1名勤務予定です

年間救急車受け入れ：

986件（時間内：362 時間外：627）

御多分に漏れず患者さんの高齢化率（65歳以上）は80%越え、周辺に老健施設多数あり北空知唯一

の急性期病院として職員一同日夜奮闘しております。

##### 3. 外科紹介

新居利英（8期） 水上周二（20期）

岡山大志（25期）

外来：43.1人／日 入院：29.2人／日

手術件数：

	2014	2015	2016	2017	2018
全麻／腰麻	198	212	190	171	197
緊急手術	52	53	37	31	47
局麻	94	88	66	97	56

手術件数はやや減少傾向と思いますが、ニーズはあります。手術患者さんの50%が80歳以上ですので、小さな手術でもリスクは高いのが特徴でしょうか。また消化器内科常勤医不在のためお腹関係は外科が主に担当しています。大人な3人でおやじギャグを交えながら手術しています。

比較的近距离に旭川、砂川、札幌の病院があり患者さんの受診希望も多いです、旭川医大、AMUSEとの連携強化が今後ますます重要と考えます（若手大募集中です）。

いずこの地方都市も同じと思いますが地域住民のニーズを探りながら、来るもの拒まず、去る者追わずの精神でなるべく最新の知識を仕入れながら診療にあたっております。

道の駅が評判高いです、皆様是非お近くにお越しの際はお立ち寄りください、釜めしがおいしいです。



## 2018年度 AMUSE新入会員一覧

AMUSEは2018年4月～2019年3月の1年間で16名の新規会員を迎え入れました。  
みなさんが各所で活躍しています。新入会員は下記のようになっています。  
今後共よろしくお願ひ申し上げます。

申込日	入会者名	所 属	大学卒業年
2018/4/3	石 堂 耕 平	八雲総合病院	2018
2018/4/5	成 田 昌 彦	旭川医科大学外科学講座	2018
2018/4/5	柝 窪 藍	旭川医科大学外科学講座	2013
2018/4/5	井 原 一 樹	沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院	2018
2018/4/9	宮 城 久 之	旭川医科大学外科学講座 小児外科 助教	2003
2018/4/9	小 市 裕 太	旭川医科大学外科学講座	2016
2018/4/13	若 林 尚 宏	旭川医科大学外科学講座	2012
2018/4/17	清 水 紀 之	名寄市立総合病院 心臓血管外科	1996
2018/4/26	田 中 千 陽	旭川医科大学 心臓大血管外科学分野 助教	2008
2018/5/1	金 澤 寛 之	旭川医科大学移植医工学治療開発講座 特任助教	2000
2018/8/21	角 泰 雄	旭川医科大学外科学講座 消化管外科学分野 教授	1994
2018/11/13	片 寄 駿	札幌東徳洲会病院	2018
2018/11/14	水 上 奨一朗	旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科分野	2016
2018/11/30	乾 野 幸 子	遠軽厚生病院	2004
2018/12/6	間 優 衣	札幌徳洲会病院	2016
2019/2/15	佐々木 路 佳	青葉病院	1989

## 湘南鎌倉総合病院（1年目）

## 井原 一 樹

初期研修医1年目の井原一樹と申します。私は今湘南鎌倉総合病院にて研修させて頂いております。

年間1万人以上の救急患者が訪れる救急病院であり、研修医としてはwalk-inから多発外傷などの様々な経験ができています。

初期研修を通して強く感じたこと、学んだことは2つあります。

1つは外科医は手技だけではなく、患者さんを「診る力」が必要であるということです。学生の際は術場の見学がメインだったように思いますが、実際は手術に至るまでの身体診察から検査所見、手術の適応を深く考える必要があります。湘南鎌倉総合病院ではほぼ毎日ER症例から緊急手術を行っており、外科2チームで100人から150人程度の入院患者を担当します。毎朝6時からのお診・処置・手術で把握は大変ですが、上級医は手術の予習から患者把握に余念がなく、尊敬すべき人ばかりで学びが多かったです。

2つ目は「対応力」です。

現在は内科をローテーション中ですが、検査値異常へのアプローチ・解釈や急変患者の病棟対応など今後の医師人生の基盤となる思考の過程や判断力を学ぶことができます。どんな状況においてもリーダーシップを持って対応していく力は必須であり、それを少しずつ学ぶことができます。

研修はあと1年ありますが、医師としての基盤を厚くできるよう一層精進して参ります。

私事ではありますが第一子が産まれました。子に恥じない父・医師になれるよう、努力し続けます。



## 札幌東徳洲会病院（1年目）

## 片 寄 駿

初めまして、研修医の片寄駿と申します。出身は札幌市で大学から旭川に参りました。現在は札幌東徳洲会病院で初期研修医をしております。私は中学生の頃「Dr. 診療所」という漫画に影響を受け外科医に憧れを抱いていたことを思い出します。今こうして同じ土俵に立てる喜びと、外科学講座に所属させていただけることへの感謝を忘れずに日々精進したいと思います。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 札幌徳洲会病院（3年目）

## 間 優 衣

2016年に旭川医科大学を卒業した38期の間 優衣です。この度初期研修を終え、外科医としてまた新たな医師のスタートを切らせていただきまし

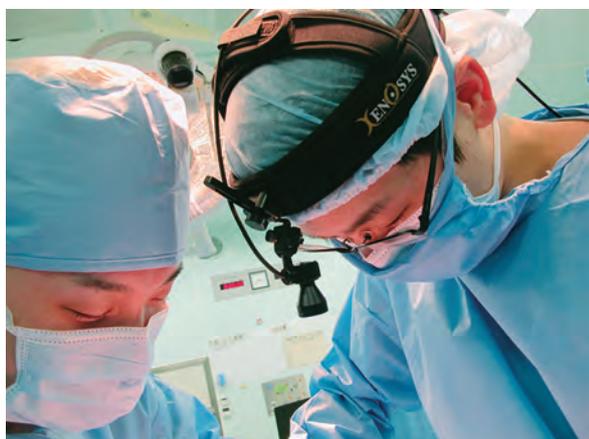


た。市立函館病院で2年間初期研修を行い、医師3年目は外科として札幌徳洲会病院で様々な急性疾患を経験することができました。この1年間、院内院外含め様々な先生方にご指導いただき、出会いの大切さを身に染みて感じております。お世話になった先生方本当にありがとうございました。これからもさながら乾いたスポンジのようにたくさん吸収して邁進していく所存です。ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願いします。

### 旭川医科大学（3年目）

## 水上 奨一郎

はじめまして、3年目後期研修医の水上奨一郎と申します。2018年3月まで消化器内科を志望しておりましたが、情熱と使命を持って生涯続けていきたいことに迷いを感じ、AMUSEの扉を叩き…、現在、旭川医科大学外科学講座肝胆膵・移植外科学分野のチームの一員として勤務させていております。その後も進路に迷いながら勤務を続けておりましたが、同年12月に消化器外科医として生きていく道を選び、こうして挨拶させている次第です。旭川医科大学外科学講座のスタッフの皆様には本当に感謝しております。せわしく忙しい日々が続いていますが、熱く丁寧に日々の診療・手術などを指導して頂き、充実した毎日を送ることができております。より優れた外科医として、医師として成長できるようより研鑽に励んでいく所存です。今後とも諸先輩、同期、後輩の皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。



堀川先生（左）と手術をしている私（右）

### 八雲総合病院（1年目）

## 石堂 耕平

初めまして、八雲総合病院で1年目初期研修医として研修しております石堂耕平と申します。大学生時代は勉強と水泳、うどん作りに励んでおりましたが、大学6年生の臨床実習の際に紙谷教授をはじめ心臓外科の先生方を目の当たりにし、兎にも角にもその「格好良さ」を肌で感じたのが、心臓外科を志すに至ったきっかけです。現在、八雲総合病院ではオーベンの先生に「尻毛の本数分かるようになるぐらいまで患者のところに足を運べ。」とお言葉を頂き、この言葉を信条に一流の心臓外科医を目指して日々邁進しております。

最後になりましたが、来年度からは旭川医科大学で2年目初期研修医として勤務させていただきます。ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



医大の研修同期とともに（筆者中央）

### 旭川医科大学（1年目）

## 成田 昌彦

AMUSE会員の先生方におかれましては平素よりお世話になっております。深川市出身の33歳、心臓外科志望です。

研修医1年目の今年は、自らの知識と経験の無

さを痛感する日々で、思い出すのも辛いくらいですが、何とか今日までやってこれました。それもひとえに、折に触れて気にかけて声をかけて下さり、励まして下さる先輩先生方のおかげであります。また紙谷教授のご高配により4月(予定)からは深川市立病院で外科研修を行えることになりました。生まれ故郷で外科医としての一步を踏み出せることを嬉しく思っています。

どうか皆様、今後とも変わらずご指導ご鞭撻頂けますよう宜しくお願い申し上げます。



仲間との飲み会にて(筆者 中央奥)

### 旭川医科大学外科学講座

## 栃窪 藍

今年度より入会した栃窪藍です。卒後5年間札幌の病院で心臓血管外科に所属していました。外科修練を重ねる中で血管外科の魅力を感じ、今年度から血管外科に所属させて頂きました。所属してからは毎日が目まぐるしく過ぎて行きますが、とてもアットホームな雰囲気の中先生方のご指導の下大変充実した日々を過ごしています。学術活



動も大学病院だけあって沢山経験させて頂き、日々新たな出会いや経験に感謝している毎日です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

### 旭川医科大学外科学講座 小児外科

## 宮城 久之 (第25期)

2018年4月より、宮本教授、平澤先生、石井先生から、まずはお作法から教えて頂いております。多々染みついたものがなかなか抜けず日々御迷惑をおかけしておりますが、一から学ばせて頂いております。

血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野(第一外科)東教授からは臨床および研究に御指導頂き、鎖肛モデルマウスの研究に着手させて頂いております。まだ何も見えておらず手探りですが、コツコツ続けて参りたいと存じます。また、北大時代に御指導頂きました古川教授・病院長からもよく声を掛けて頂き、大変心強く、有り難いことと感謝しております。

教育に関しましては、宮本教授、平澤先生の築かれてきたことを継承しつつ、多くの人が外科(小児外科含め)を志すような場を作って行けたら良いと考えております。ご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

### <略歴>

- 2003 京都府立医科大学小児外科
- 2006 滋賀県近江八幡市立総合医療センター小児外科
- 2007 北海道大学第一外科
- 2008 北海道がんセンター消化器外科  
旭川厚生病院外科



- 2010 北海道大学消化器外科 I
- 2013 神奈川県立こども医療センター外科
- 2015 北海道大学消化器外科 I
- 2017 Alder Hey Children's Hospital, University of Liverpool, UK
- 2018 旭川医科大学外科学講座小児外科

#### 旭川医科大学外科学講座

### 若林尚宏

2019年4月で医師8年目を迎えます、若林尚宏と申します。金沢大学を卒業後、同大学病院とその関連病院で研修を行い、その後3年間岸和田徳洲会病院にて研鑽を経、2018年4月より旭川医科大学第一外科（心臓外科）に入局致しました。心臓外科医を志して医師となってから、所属していた医局が崩壊状態になる等いくつかの岐路がありましたが、人との縁やチャレンジする気持ちを大切に歩んできた結果、現在は紙谷教授の下、臨床・研究・教育の各々で新たな経験を数多く積ませて頂いております。至らぬ点も多く、また旭川の厳しい自然環境に這這となることも幾ばくかありましたが、旭川から全国、世界へ羽ばたけるよう、愛する家族と共に頑張っていきたいと思えます。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## AMUSE 初期・後期研修医一覧

2019年2月現在、5年目以下のAMUSE会員32名が道内各所で外科専門医取得を目指し研鑽を積んでいます。AMUSE会員の皆様におきましては若手外科医の指導・サポートで大変お世話になっています。今後も御指導・御支援の程よろしくお願い申し上げます。

年次	氏名	所属
1年目	石堂耕平	八雲総合病院
	成田昌彦	旭川医科大学
	井原一樹	沖繩徳洲会湘南鎌倉総合病院
	片寄駿	札幌東徳洲会病院
2年目	潮田亮平	旭川医科大学
	大久保諒	札幌東徳洲会病院
	高橋一輝	市立旭川病院
	堀川大介	旭川医科大学
	柴垣圭佑	名寄市立総合病院
	宮本寛之	市立旭川病院
3年目	鎌田啓輔	旭川医科大学
	竹吉大輔	かわぐち心臓呼吸器病院
	大平成真	製鉄記念室蘭病院
	山本寛大	遠軽厚生病院
	安達雄輝	富良野協会病院
	森山寛也	小林病院
	小市裕太	旭川医科大学
	水上奨一朗	旭川医科大学
	間優衣	札幌徳洲会病院
4年目	竜川貴光	旭川医科大学
	武田智宏	札幌徳洲会病院
	齋藤善也	遠軽厚生病院
	中津知己	旭川医科大学
	安田俊輔	国立病院機構帯広病院
	岩田浩義	名寄市立総合病院
	阿部昌宏	国立病院機構帯広病院
	小林大太	釧路孝仁会記念病院
	國岡信吾	製鉄記念室蘭病院
5年目	栗山直也	旭川医科大学
	菊池悠太	国立病院機構帯広病院
	吉田奈七	旭川医科大学
	合地美香子	旭川医科大学

## 編 集 後 記

AMUSE創設から3年が経過しました。1号より本年報作成に関わらせて頂いており、この時期に1年を振り返るのが恒例となっていますが、1年前のことが遠い昔のように思えます。

「一般社団法人」の幹事として思うところはいくつかありますが、その中の一つに「社会への貢献」というのがあります。

本年度はAMUSEで北海道胆振東部地震への派遣や中学生を対象にした外科セミナーを開催しました。被災地で活躍された東教授をはじめとするチームの皆様お疲れ様でした。普段、病院の中で仕事をしていると忘れがちですが、我々は「社会」の中で生活しています。社団法人の一員としてAMUSEの地域社会の中で果たす役割というのも意識していきたいと考えています。

また、中学生を対象にした外科セミナーを開催しました。指導者はすべて5年目以下の前期・後期研修医でしたが、印象に残っているのは、指導にあたってくれた若手外科医の真剣な表情です。熱意を持った指導に未来への明るい展望を感じました。若手医師の皆さんには、このような活動の中でAMUSEの果たす役割を意識して欲しいと考えています。

最後に次年度以降の会報について申し上げます。次年度以降は本年報に企業広告を掲載することで会報の出版費用の軽減を図る予定であります。次年度の総会で案内があると思いますがご意見をいただけますと幸いです。

今年も製鉄記念室蘭病院赤坂副院長、深川市立病院外科新居副院長をはじめとする多くの寄稿で本年報は作成されています。年度末の多忙な時期に寄稿いただきました皆様に感謝申し上げます。また、年報の事務作業のほぼすべてを行っていただきました、AMUSE秘書米谷さん・島村さんに深く感謝申し上げます。

(T.S)



### AMUSE年報 第3号

発行 2019年3月31日

編集 一般社団法人 AMUSE  
(旭川医科大学外科学講座教育支援機構)

印刷 株式会社あいわプリント